

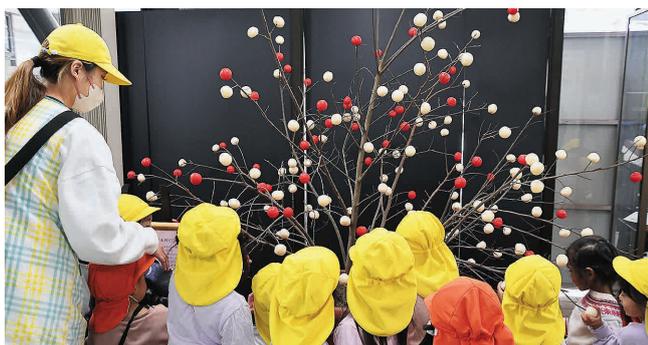


五穀豊穡、無病息災を願って

「おまい玉^{まゆだま}（繭玉飾り）」を庁舎に展示

1月13日から16日にかけて、庁舎1階の町民ホールに「おまい玉」を展示しました。近くの幼稚園の園児たちも来庁し、枝に刺さった紅白のおだんごを珍しそうに表情で見つめていました。

おまい玉とは…養蚕業^{ようさんぎょう}や農業が盛んな地域で、五穀豊穡や無病息災などを願う小正月（1月15日あたり）に行われた伝統行事のこと



かるたで競って、郷土を知る

彩の国21世紀郷土かるた毛呂山町大会を開催

1月18日、総合公園体育館で「彩の国21世紀郷土かるた大会第38回毛呂山町大会」が開催されました。高学年個人部の優勝者、高学年団体部の優勝、準優勝チームは、3月に開催される県大会に出場します。



井上町長がYouTube番組に？

「首長と〇〇(まるまる)やってみた」に出演

1月23日、YouTubeに番組が公開されました。内容は右下の二次元コードから。果たして、どんな〇〇か？



MOROYAMA PHOTO SNAP NEWS

ご寄附ありがとうございます 1

昨年に引き続き、ご寄附をいただきました

1月9日、町内在住の瀧澤時夫さんより、子どもたちのために役立ててほしいと、200万円のご寄附をいただきました。有効に活用させていただきます。誠にありがとうございました。



ご寄附ありがとうございます 2

株式会社サンワックス様よりご寄附をいただきました

株式会社サンワックス様から企業版ふるさと納税（地方創生応援税制）を利用し、令和7年12月15日に「充実した学習環境の提供により、自己肯定感や将来を切り開く力を育み、心身ともに健やかな子どもを育むまちづくり事業」へ100万円のご寄附をいただきました。誠にありがとうございました。



毎週土曜日の午前中に中央公民館で活動している、日本語ボランティアサークル『もろやまインターナショナルクラブ』。1月10日、令和8年最初の活動が行われたこの日、その様子取材しました。

スタッフに話を聞くと「最初は公民館主導のもと、県から講師を招いて日本語ボランティアの勉強会を開き、その受講者が中心となって結成されました。活動当初、学習者の中心は大学の留学生や企業の実習生で、中国、韓国、台湾などの人が多く、そのほとんどは単身者で、定住することなく1～2年で母国に帰っていきました。現在は、フィリピン、インドネシア、ベトナム、バングラデシュなど、東南アジアや南アジアの人が多く、定住するために家族単位で参加する学習者が増えました。」とのこと。

これまで、延べ300人以上の人が利用してきた本サークル。「学習者たちが、だんだんと日本語が上達していくのを実感できるのが素直にうれしい。加えて、各国の言語や習慣など異文化に触れることができ、国境を越えた交流を楽しんでいます。」と、活動に対する思いを語りました。

もろやまインターナショナルクラブが 30周年を迎えました



取材した日は、インドネシア、スリランカ、バングラデシュ、中国出身の方が参加。日本の伝統文化である「茶道」を体験する内容で、茶^{ちやせん}筥の使い方を習い、自身で点^たてた抹茶や和菓子^{わがし}を味わいました。

多文化共生について、スタッフは「毛呂山町でも外国の人は増えており、言葉の壁を感じる人も多いと思います。困っている外国の人たちに、私たちからアプローチをし、話しかけ、言葉だけではなく日常生活面においてもサポートできるように、今後も活動を続けていきたいです。」と話してくれました。



もろやまインターナショナルクラブ
Moroyama International Club
Japanese language class



毎週土曜日 午前9:00～12:00 @中央公民館
every Saturday a.m.9:00～12:00 @Chuo Kouminkan

読者の皆さんへ…

私たちが今、一番困っていることは、学習者を支援するボランティアスタッフが少ないことです（現在6人）。この記事を読んで興味を持たれた方は、ぜひ一度、サークル活動に足を運んでみてください。皆様のご参加をお待ちしています。詳しくは、もろやまインターナショナルクラブ（担当：小久保 ☎294-6391）まで。